

安芸市耐震改修促進計画（第2期）

令和2年10月
高知県安芸市

目 次

1 計画の位置づけ等

- (1) 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2 想定される地震の規模、被害の状況等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

3 建築物の耐震診断及び耐震改修の実施に関する目標

- (1) 耐震化の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 耐震化の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

4 建築物の耐震診断及び耐震改修の促進を図るための施策

- (1) 耐震診断・改修に係る基本的な取り組み方針・・・・・・・・・・・・ 5
- (2) 役割分担・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (3) 事業の実施方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (4) 地震時の建築物の総合的な安全対策の方針・・・・・・・・・・・・ 8
- (5) 耐震診断・改修の促進を図るための支援策の概要・・・・・・・・・・ 8
- (6) 現在実施している支援策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (7) 安心して耐震改修を行うことができるようにするための環境整備・・・・ 8

5 地震時の建築物の総合的な安全対策に関する事業の概要

- (1) 窓ガラスの落下防止対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (2) 大規模建築物における天井崩落対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (3) 地震時におけるエレベーターの閉じ込め防止対策・・・・・・・・・・・・ 9
- (4) ブロック塀の倒壊防止対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (5) 地震発生時に通行を確保すべき道路に関する事項・・・・・・・・・・・・ 10
- (6) 地震に伴う崖崩れ等による建築物の被害の軽減対策・・・・・・・・・・・・ 10

6 建築物の地震に対する安全性の向上に関する啓発及び知識の普及に関する事項

- (1) 地震防災マップの作成・公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (2) 相談体制の整備及び情報提供の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

- (3) パンフレットの作成・配布、セミナー・講演会の開催・・・・・・・・・・ 1 1
- (4) リフォームに合わせた耐震改修の誘導・・・・・・・・・・ 1 1
- (5) 自主防災組織等との連携・・・・・・・・・・ 1 1

7 建築基準法による勧告又は命令等についての所管行政庁との連携に関する事項

- (1) 耐震改修促進法による指導等の実施・・・・・・・・・・ 1 2
- (2) 指導・助言の方針・・・・・・・・・・ 1 2
- (3) 指示の方針・・・・・・・・・・ 1 2
- (4) 公表の方針・・・・・・・・・・ 1 2
- (5) 建築基準法による勧告又は命令等の実施・・・・・・・・・・ 1 3

8 その他

- (1) 地震保険の加入促進・・・・・・・・・・ 1 3
- (2) 被災建築物応急危険度判定等の実施・・・・・・・・・・ 1 3
- (3) その他・・・・・・・・・・ 1 3

(資料編) 安芸市住宅耐震化緊急促進アクションプログラム

「安芸市耐震改修促進計画（第2期）」（以下「安芸市計画」という。）は、地震による建築物の被害及びこれに起因する人命や財産の損失を未然に防止するため、昭和56年5月以前に建築された、現行基準を満足していない住宅及び特定建築物を中心に全ての建築物において、第1期計画に引き続き耐震診断・耐震改修を総合的かつ計画的に進め、市における建築物の耐震化を図ることを目的とする。

1 計画の位置づけ等

（1）計画の位置づけ

安芸市計画は、耐震改修促進法第5条第1項の規定に基づき、国が示した基本方針（平成18年1月25日付け国土交通省告示第184号）を踏まえつつ、『高知県耐震改修促進計画（第2期計画）』を勘案して策定する。

（2）計画期間

計画期間は、令和2年度から令和7年度までの6箇年とする。

なお、目標値については令和2年度を目処に中間検証を行うとともに、耐震化の進捗状況や社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行う。

2 想定される地震の規模、被害の状況等

土佐湾沖の南海トラフを震源とする南海トラフ地震は、100年から150年の間隔で発生すると言われており、国の「地震調査委員会」は、2020年1月1日を基準日と算定して、今後30年以内に発生する確率を70～80%と公表した。

市では、次の南海トラフ地震について、安芸市地域防災計画における最大クラスのL2想定では、震度6強（軟弱地盤などでは震度7）から震度6弱の強い揺れが、2.5分～3分間という非常に長い時間にわたって続くと想定している。

この想定による死者は約1,800名、負傷者は約1,800名、全壊焼失・半壊建物は約14,800棟となっており、特に、想定死者数約1,800名のうち、揺れ（建物倒壊）によるものが約390名、その他火災や崖崩れ、ブロック塀倒壊によるものが若干名としている。

表1 南海トラフ地震により想定される被害

L1=頻度の高い一定程度の地震 L2=想定される最大クラスの地震	人的被害		建物被害	
	死者	負傷者	全壊・焼失	半壊
L1 想定	220 人	490 人	1,300 棟	3,200 棟
L2 想定	1,800 人	1,800 人	9,700 棟	5,100 棟

3 建築物の耐震診断及び耐震改修の実施に関する目標

(1) 耐震化の現状

①住宅

平成30年住宅・土地統計調査によると、安芸市の住宅総数は約7,020戸である。このうち、新耐震基準で建設された住宅は3,840戸、耐震化の対象となる昭和56年以前の耐震基準（旧耐震基準）で建設された住宅は、2,630戸、建築年代不詳戸数が550戸ある。

市内の既存住宅耐震化の統計データが存在しないため、国土交通省の住宅の耐震化率の推計を基に、建築年代不詳戸数は、昭和56年以降と昭和55年以前に建てられた戸数の割合で按分（有326戸、無94戸）し、旧耐震診断基準で建てられた住宅の耐震性割合（54%：1,545戸）及び旧耐震基準で建てられた住宅の耐震改修工事の実施戸数（260戸）から耐震化率を推計すると、平成30年度末時点で85%となり、高知県の77%を上回る水準となる。

表2 住宅の耐震化の状況（平成30年住宅・土地統計調査より推計）

	戸数	耐震性有（耐震改修実施済含む）		耐震性無	耐震化率
		昭和56年以降建築	昭和56年以前の建築		
住宅総数	7,020戸	3,840戸 326戸	1,545戸 260戸	1,049戸	85%

注1) 旧耐震基準で建てられた住宅の耐震性割合

H20～30年の住調から得られる、H16～30年に耐震診断を実施し、結果「耐震性が確保されていた」住宅の割合（＝耐震性が確保されていた住宅戸数（「耐震改修工事をした」住宅を除く）／耐震診断実施戸数）

※S55年以前に建てられた住宅のみを対象

（建築年代不詳戸数はS56年以降とS55年以前の実施戸数の割合で按分する）

$(170+110+180) / (320+230+300) \approx 0.54$

$0.54 \times (7,020 - (3,840+326)) \approx 1,545$

注2) 旧耐震基準で建てられた住宅の耐震改修工事の実施戸数

H20年以降の住調から得られる以下の戸数の累計

- ・H20年以前の耐震改修工事をした戸数（120戸）
- ・H21～25年に耐震改修工事をした戸数（70戸）
- ・H26～30年に耐震改修工事をした戸数（70戸）

※S55年以前に建てられた住宅のみを対象

（建築年代不詳戸数はS56年以降とS55年以前の実施戸数の割合で按分する）

②多数の者が利用する建築物

市が実施した調査及び平成27年度高知県調査では、多数の者が利用する建築物（国・県・市・政府機関所有等建築物は除く（以下同じ））は21棟あると考えられる。

そのうち建築年が昭和56年以前のもは市内に4棟ある。このうち、3棟の耐震診断を実施した結果、耐震性があるとされる建築物は1棟であり耐震改修を行っている1棟と併せて全体の耐震化率は約90%となっている。

表3 多数の者が利用する建築物の耐震化の状況

建物用途	棟数	耐震診断件数	耐震性あり	耐震改修済	耐震化率
病院・診療所	3棟	1棟	2棟	1棟	100%
店舗	1棟	0棟	1棟	0棟	100%
ホテル旅館等	1棟	0棟	1棟	0棟	100%
賃貸共同住宅	7棟	0棟	7棟	0棟	100%
事務所	5棟	1棟	5棟	0棟	100%
老人ホーム等	3棟	0棟	2棟	0棟	約66.6%
老人福祉センター等	1棟	1棟	0棟	0棟	0%
合計	21棟	3棟	18棟	1棟	約90.4%

(2) 耐震化の目標

国の基本方針では、令和2年までに、住宅及び多数の者が利用する建築物の耐震化率を少なくとも95%とし、令和7年までに耐震性が不十分な住宅をおおむね解消することを目標としている。

高知県は国の基本方針を基に、住宅の耐震化目標を令和2年度末までに85%、令和7年度末までに93%とし、多数の者が利用する建物の耐震化目標は令和2年度末までに93%、令和7年度末までに97%としている。

以上の目標値を参考に、市の耐震化目標数値を下記のとおり設定し、住宅については住宅土地統計調査に合わせて5年ごとに、多数の者が利用する建築物は3年ごとに定期的な検証を実施し実態の把握を行う。

①住宅の目標

住宅の耐震化率について、高知県の目標（耐震化率を93%とすること）の政策効果も踏まえ、平成27年度当時の約90%を令和7年度末までに約94%とすることを目標とする。

②多数の者が利用する建築物の目標

多数の者が利用する建築物全体の耐震化率を令和7年度末までに約100%とすることを目標とする。

表4 住宅及び多数の者が利用する建築物等の目標

		現状		目標 (R7年度末)
住宅総数		約7,020戸 注1)		約6,879戸 注3)
	うち耐震性有	約5,971戸 (約85%)	➔	約6,441戸 (約94%)
	うち耐震性無	約1,049戸 (約15%)		約438戸 (約6%)
多数利用建築物総数		21棟 注2)		21棟
	うち耐震性有	19棟 (91%)		21棟 (100%)
	うち耐震性無	2棟 (9%)		0棟 (0%)

注1) 住宅総数は、平成30年住宅・土地統計調査による。

注2) 市調査及び平成27年度高知県調査による。

注3) 令和7年度末の推計は、平成27年度～令和元年度の固定資産税新築総評価件数、総取り壊し件数の平均に準じた推測による。

③公共的建築物の耐震化の目標

学校、体育館、病院、集会場、庁舎は、地震などの災害が発生した場合には、避難場所等となり防災上重要な施設である。

また、老人ホーム等の社会福祉施設、幼稚園・保育所などは災害時に自らが避難することが容易でない利用者に使用される施設である。

これらの公共的な建築物で、多数の者が利用する建築物の耐震化の目標を約94%とするとともに、個別・具体的な施策を検討していく。

表5 各用途別目標

建物用途	棟数	耐震性有	耐震性無	耐震化率
学校	11棟	11棟	0棟	100%
体育館(一般公共に供されるもの)	5棟	5棟	0棟	100%
集会所・公会堂	1棟	0棟	1棟	0%
幼稚園・保育所	1棟	1棟	0棟	100%
博物館・美術館・図書館	1棟	0棟	1棟	0%
庁舎等	8棟	6棟	2棟	75%
その他	8棟	8棟	0棟	100%
合計	35棟	31棟	4棟	88.6%

4 建築物の耐震診断及び耐震改修の促進を図るための施策

(1) 耐震診断・改修に係る基本的な取り組み方針

高知県、市、建築物所有者・管理者（以下「所有者等」という。）、建築関係技術者、建築関係団体、自主防災組織等は、県計画の実施体制を考慮しながら、下記に示す役割のもと、連携を図り、耐震改修を進める。

(2) 役割分担

①高知県

高知県は広域的な観点から、庁内又は関係市町村及び関係団体と連携しながら下記の施策を行う。

(ア) 県計画の策定

- ・ 県計画の策定、見直し

(イ) 耐震改修等の実施、促進

- ・ 県有建築物の耐震改修等の計画的な実施
- ・ 民間建築物の耐震改修等の促進
- ・ 重点建築物の設定及び耐震改修等の誘導
- ・ 耐震改修促進法に基づく特定建築物に対する指導・助言・指示・公表
- ・ 耐震改修促進法に基づく所管建築物に対する改修計画の認定

(ウ) 技術者養成・把握

- ・ 耐震改修・耐震診断に関する技術者の養成・把握

(エ) 所有者等に対する普及啓発、情報提供

- ・ 広域的な地震防災マップによる注意喚起
- ・ 耐震相談窓口の設置、運営
- ・ 所有者等に対する耐震性向上に関する注意喚起、普及、啓発
- ・ 無料の耐震相談窓口の設置、運営
- ・ 市町村、自主防災組織等との連携による家具の転倒対策、ブロック塀の倒壊対策等の実施

(オ) 市町村、建築関係団体との連携

- ・ 市町村、建築関係団体との連携体制の構築
- ・ 建築関係団体との連携による、耐震改修等に関する技術者の養成
- ・ 市町村、建築関係団体への情報提供、技術的支援等

②安芸市

市は住民の最も身近な立場から、地域の実情に応じた耐震改修等の促進のための施策を行うことが重要である。

また、住民、自主防災組織等の活動を支援し、連携して下記のことを実施する。

(ア) 市計画の策定

- ・市計画の策定、見直し

(イ) 耐震改修等の実施、促進

- ・市有建築物の耐震改修等の計画的な実施
- ・民間建築物の耐震改修等の促進
- ・重点建築物の耐震改修等の誘導
- ・耐震診断に対する専門家の派遣や各種補助事業の実施の他、税制優遇措置のための証明等の実施
- ・避難路等の設定

(ウ) 所有者等に対する普及啓発、情報提供

- ・相談窓口の設置・運営
- ・所有者等に対する建築物の耐震性向上に関する注意喚起、普及、啓発
- ・自主防災組織等との連携による家具の転倒対策、ブロック塀の倒壊対策等の実施
- ・必要に応じた、詳細な地震防災マップの策定による注意喚起
- ・住宅耐震化緊急促進アクションプログラムを基にした取り組み（別添資料編参照）

(エ) 高知県、建築関係団体との連携

- ・高知県、建築関係団体との連携体制の構築

③所有者等

建築物の耐震化は、所有者等自らの問題として取組むことが不可欠であり、所有者等は下記のことを実施する。

- ・自ら所有・管理する建築物の耐震性を確認するための耐震診断の実施
- ・耐震診断の結果に基づく、必要に応じた耐震改修・建替の実施

④建築関係技術者

高知県、市が実施する耐震改修等を促進するための施策への協力や、専門的知識を有する建築関係技術者として所有者等への適切なアドバイス等、下記のことを実施する。

- (ア) 所有者等に対する普及啓発、情報提供
- ・所有者等に対する建築物の耐震性向上に関する適切な助言

- (イ) 耐震改修等の実施
- ・耐震診断・耐震改修等の業務の適切な実施

- (ウ) 技術の向上、研鑽
- ・耐震診断講習会の受講、登録
 - ・耐震改修等に関する技術の向上、研鑽

⑤建築関係団体

高知県、市が実施する耐震改修等を促進するための施策への協力、中立的な立場から建築物の所有者等への適切なアドバイスに加え、所有者等や技術者及び行政等と連携し下記のことを実施する。

- (ア) 所有者等に対する普及啓発、情報提供
- ・耐震相談窓口の設置・運営
 - ・無料の耐震相談会、耐震講習会等の実施

- (イ) 技術者等の養成
- ・耐震診断・耐震改修等に関する技術者向けの講習会の実施

- (ウ) 耐震判定業務の促進
- ・四国耐震診断評定委員会の運営

- (エ) 市との連携
- ・耐震診断・耐震改修等の促進のための高知県、市への協力

⑥自主防災組織等

自主防災活動を通じて、防災知識の普及や地域における災害危険の把握に努める。

- ・住宅の耐震化、家具の転倒防止対策等の学習会の実施
- ・ブロック塀の倒壊危険箇所の点検

(3) 事業の実施方針

住宅・建築物の耐震化の促進のためには、まず、所有者等が自らの問題、地域の問題として取り組むことが不可欠である。

市は、こうした所有者等の取り組みをできる限り支援するという観点から、高知県

と連携して、所有者等が耐震改修等を行いやすい環境の整備や、負担軽減のための制度などを順次、実施していくよう努める。

また、「安芸市住宅耐震化緊急促進アクションプログラム」に定める取り組みを実施し、実施状況の把握・検証と必要に応じて見直しを行い、公表しながら進めていく。

(4) 地震時の建築物の総合的な安全対策の方針

地震の発生により窓ガラスや天井といった建物の二次部材の落下等による人身事故や、ブロック塀の倒壊、エレベーター内の閉じ込め等の事故が起きている。

地震による被害を防止するためには、建物本体の耐震化のみならず、これらの二次部材等の耐震化を図る必要がある。

このため、市は、高知県と連携し、必要に応じて、安全対策費用の補助や広報等を行い、周知・徹底を図るよう努める。

(5) 耐震診断・改修の促進を図るための支援策の概要

平成18年度に民間の多数の者が利用する建築物の所有者等を対象として高知県が実施したアンケート調査結果では、耐震診断・改修に取り組まない理由として、「経済的な理由により対応できないから」、行政に要望することとして、「耐震診断・改修をするための補助制度をつくってほしい」との回答が多数寄せられた。

昭和56年5月以前の建築物の中には、耐震性を有する建築物も一定あると想定されるが、全ての該当建築物で耐震診断を行っていないため、その実態が不明である。

今後、令和7年度末までに耐震化率を目標数値に引き上げるためには、昭和56年5月以前に建築された耐震性が不十分な建築物の耐震改修や建替を促進する必要がある。

このため、市は、耐震改修等をより一層推進するために、国の補助事業を活用した助成制度をより一層充実させるよう検討するとともに、負担軽減のための制度などを順次、実施していくよう努める。

(6) 現在実施している支援策

市では、木造住宅耐震診断事業を平成16年度に創設し、令和元年度末までに耐震診断478戸を実施している。

また、住宅耐震改修設計費補助事業及び住宅耐震改修工事費補助事業を平成18年度に創設し、令和元年度末までに耐震改修設計184戸、耐震改修工事142戸を実施している。

(7) 安心して耐震改修を行うことができるようにするための環境整備

①所有者等への情報提供（啓発用リーフレットなどの活用）

市は、高知県と連携した耐震に関する講演会の開催、広報による耐震対策事業の紹

介などを行い、所有者等に対して建築物の耐震対策の重要性を啓発するよう努める。

②耐震対策に関する相談の実施

市は、耐震対策に関する所有者等からの問い合わせに対応できるように、担当者による相談を随時、実施するよう努める。

③技術者育成

市は、高知県と連携して、耐震診断や耐震改修を行う技術者向けの講習会を実施し、登録された事業者が継続的に技術をレベルアップできる仕組みづくりを行うよう努める。

5 地震時の建築物の総合的な安全対策に関する事業の概要

(1) 窓ガラスの落下防止対策

昭和53年6月に発生した宮城県沖地震において、窓ガラスの落下による人身事故が発生したことを受け、窓ガラスの固定方法等の建築基準法関連告示が改正（昭和53年に屋外に面したはめごろし窓のガラス施工の場合、硬化性シーリング材を使用しないよう基準が改正）された。

その後、平成17年3月に発生した福岡県西方沖地震において、繁華街にある既存不適格の商業施設から窓ガラスが落下したことにより、この問題が再認識された。

これらを受けて、市は、高知県と連携し、必要に応じて、当該対策に関する広報等を行い、周知・徹底を図るよう努める。

(2) 大規模建築物における天井崩落対策

平成13年に発生した芸予地震により、学校の体育館の天井が崩落したことを受けて、天井の揺れ止めの設置やクリアランスを取るなどの対策（「大規模建築物の天井崩落対策について（技術基準）」）（平成15年10月15日付け国住指発第2402号）が作成された。

その後、平成17年8月に発生した宮城県沖地震において、技術基準に適合していない屋内プールの天井が崩落し、負傷者が出たことを受け、体育館などの大規模空間を有する建築物について国から再度技術基準への適合が求められているところである。

このため、市は、高知県と連携し、必要に応じて、当該対策に関する広報等を行い、周知・徹底を図るよう努める。

(3) 地震時におけるエレベーターの閉じ込め防止対策

平成17年7月に発生した千葉県西北部を震源とする地震において、エレベーターの故障・損傷等や閉じ込め事故が発生したことを踏まえ、エレベーターの地震対策について早急に取り組む必要がある。

この地震では、人身危害の可能性のある故障・損傷も報告されているが、平成10年以降の「昇降機耐震設計・施工指針」（国土交通省から委託を受けて（財）日本建築センターに設置された「昇降機耐震設計・施工指針検討委員会」が、昇降機の耐震設計・施工について一般的な指針を定めたもの）によるエレベーターでの故障は発生しておらず、安全性が確認されていることから、引き続き、市は高知県と連携し、必要に応じて、当該対策に関する広報等を行い、周知・徹底を図るよう努める。

（４）ブロック塀の倒壊防止対策

昭和53年6月に発生した宮城県沖地震において、ブロック塀の倒壊により多数の死傷者が出たことなどによりブロック塀に関する基準が改正されたが、その後も、平成7年に発生した兵庫県南部地震や平成28年に発生した大阪北部地震等においても死傷者が出るなど犠牲者が後を絶たない状況にある。

ブロック塀は、住宅密集地等に設置される事例が多く、地震時に倒壊した場合、人身事故が発生する可能性が高いことから、喫緊の対策を講じる必要がある。

このため、市は、自主防災組織を通じ、ブロック塀の安全対策についての周知や、ブロック塀の撤去費用の補助を行うなど、危険回避対策を講じるよう努める。

また、市は、ブロック塀の代わりに生垣等を設置するなどの、地震時に倒壊しないような構造への転換をPRするよう努める。

（５）地震発生時に通行を確保すべき道路に関する事項

耐震改修促進法第6条第3項第2号に基づき定める道路は、地震による建築物の倒壊によって緊急車両や住民の避難の妨げになる次に掲げる道路とする。

- ・ 一般国道及び県道
- ・ 市道・農道・林道・集落道

（６）地震に伴う崖崩れ等による建築物の被害の軽減対策

市内には、山間部の急傾斜地に存在する集落が少なくない状況にある。

急傾斜地は土砂災害に対する安全度が低いことから、市は、通常砂防事業、地すべり対策事業、急傾斜地崩壊対策事業等により、その安全度の早期向上を図り、新たな住宅・宅地供給の推進をするよう努める。

また、既存住宅・宅地においても同事業により、その地域の安全の向上を図るよう努める。

6 建築物の地震に対する安全性の向上に関する啓発及び知識の普及に関する事項

（１）地震防災マップの作成・公表

建築物の耐震化にあたり、建築物の所有者等の意識の向上を図るため、発生のおそれがある地震の概要と地震による危険性の程度を記載した地図（地震防災マップ）の

作成が重要である。

地震防災マップは、地震による地盤の揺れやすさについて、市の市街地の状況や地形・地盤の状況を踏まえ、適切な区分とする必要がある。

また、地震による揺れやすさだけでなく、地域の状況に応じて、地盤の液状化や崩壊の危険性、市街地の火災の危険性、避難の困難さ等に関する項目に加え、豪雨災害や河川氾濫による浸水区域についても防災マップに盛り込むことが重要である。

以上のことから、市では平成24年度に「安芸市防災のしおり」を修正（平成20年度作成）し、平成25年5月に全戸配布を行っている。

今後においては、新たな知見や被害想定を反映することを目的として、適宜、改訂作業を進めていくよう努める。

(2) 相談体制の整備及び情報提供の充実

耐震診断や耐震改修など、建築物の耐震化の相談に適切に対応するため、市は、耐震対策に関する所有者等からの問い合わせに対応できるように、担当者による相談（耐震診断、耐震改修、税制等についての相談及び情報提供）を随時、実施するよう努める。

なお、住宅の耐震診断・改修全般の常設の相談機関として、住宅耐震相談センター（電話 088-825-1240）が設置されている。

(3) パンフレットの作成・配布、セミナー・講演会の開催

①啓発用リーフレットなどの活用

市は、耐震に関する講演会の開催、広報等による耐震対策事業の紹介など、所有者等に対して建築物の耐震対策の重要性を啓発するとともに、住民への家具の転倒防止、ブロック塀の倒壊防止についても啓発するよう努める。

②多数の者が利用する建築物に対する普及・啓発

多数の者が利用する建築物の耐震化を図るために、市は高知県と連携して、所有者等に対して、耐震診断、耐震改修の実施を促すよう努める。

(4) リフォームに合わせた耐震改修の誘導

耐震改修を促進するためには、設備の更新や、バリアフリー化、リニューアル等のリフォームの機会を捉えることが効果的である。

このため、市は、高知県と連携して、リフォームと合わせて耐震改修が行われるよう事例集、講演会等を活用し、リフォームと耐震改修を一体的に行った場合のメリットや、その手法に関する情報提供を行うよう努める。

(5) 自主防災組織等との連携

南海トラフ地震では、強い揺れや津波により甚大な被害が県内全域で想定されるこ

とから、自らの命は自ら守る「自助の取組」と併せて、地域での支え合い・助け合いによる「共助の取組」が重要となる。

このため、市は、住宅の耐震化、家具の転倒防止等の対策が地域全体での取組となるよう、自主防災組織に働きかけるとともに、積極的な情報提供などにより自主防災活動を支援していくよう努める。

7 建築基準法による勧告又は命令等についての所管行政庁との連携に関する事項

(1) 耐震改修促進法による指導等の実施

特定既存耐震不適格建築物の所有者・管理者に対して、耐震診断等を行い耐震化の状況調査をするなど指導をし、耐震診断の結果、耐震性に劣る建築物については、耐震改修等の対策を行うよう指導をすることとする。

指導に当たっては、現地調査等を行い耐震化について助言等行うとともに、耐震化に関わる計画や進捗状況についても報告を受けるなどして継続的な指導に努める。

(2) 指導・助言の方針

耐震改修促進法第12条第1項（附則第3条第3項で準用する場合を含む）、第15条第1項、第16条第2項及び第27条第1項の規定に基づく指導・助言の対象となる建築物のうち、耐震診断・改修の的確な実施が必要な建築物について、所有者・管理者に耐震改修の必要性を説明し、実施に関して相談に応じるなどして耐震診断を促す。

(3) 指示の方針

耐震改修促進法第12条第2項（附則第3条第3項で準用する場合を含む）、第15条第2項及び第27条第2項の規定する建築物とし、耐震診断の指示を行う優先順位は、①災害時に機能確保が必要な建築物、②災害時に要援護者等の利用する建築物、③その他不特定多数の者が利用する建築物、④危険物の貯蔵場又は処理の用途に供する建築物の順に、個々の状況に応じて指示を行う。

また、耐震改修の指示を行う優先順位は、原則「用途」と「耐震性能」を勘案して行う。

なお、指導及び助言を行っても、耐震診断や耐震改修を実施せず、その後も協力が見込めない場合には、具体的に実施すべき事項を明示した指示書等を交付する。

(4) 公表の方針

指示書等に従わず、耐震診断や耐震改修が行われない場合には、その利用者や周辺住民に対して当該建築物の危険性を明らかにする必要がある。

明らかにすることは、指示の実効性を確保する上で有効であることから、社会的影響が大きいと予想されるものや所有者・管理者が正当な理由無く指示に従わなかった

場合は耐震改修促進法第12条第3項（附則第3条第3項で準用する場合を含む）、第15条第3項、及び第27条第3項の規定に基づき、公表を行う。

公表に当たっては、法に基づく公表であることや市民に広く周知できることなどから、今後の対策に結びつけるため、安芸市公式ホームページへの掲載や掲示板等によって市民が閲覧できるようにする。

(5) 建築基準法による勧告又は命令等の実施

公表を行った後に、建築物の所有者が耐震改修を行わない場合には次の措置を行う。

①構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性について著しく保安上危険であると認められる建築物については、速やかに建築基準法第10条第3項による命令

②損傷、腐食その他の劣化が進み、そのまま放置すれば著しく保安上危険となるおそれがあると認められる建築物については、同条第1項の勧告や同条第2項の命令

8 その他

(1) 地震保険の加入促進

地震が発生した場合には、倒壊した家屋を持つ被災者は多くの負債を抱えることになる場合が多く、地震から財産を保護するためには、地震保険への加入も有効な手段と考えられることから、市は、広報等により地震保険の加入の促進に努める。

(2) 被災建築物応急危険度判定等の実施

地震により建築物及び宅地等が被害を受け、被災建築物等の危険度判定が必要な場合、市は、高知県と連携して、判定実施本部等を設置し、必要な措置を講ずる。

また、災害救助法に規定する応急仮設住宅の建設を必要に応じて行うとともに、公営住宅等の公的賃貸住宅の空屋居住の提供等を行うよう努める。

さらに、被災した住宅・建築物についての相談業務等、地震被災時においても、適切な対応を行うよう努める。

(3) その他

その他必要な事項は別途定める。

安芸市住宅耐震化緊急促進アクションプログラム（資料編）

1. 住宅耐震化の現状(平成 30 年度住宅・土地統計調査より)

住宅総戸数 7,020 戸

耐震性有の住宅戸数 5,971 戸

耐震性無の住宅戸数 1,049 戸

2. 耐震改修の目標値

年間 30 棟の耐震改修を目標値とする。

3. 耐震化を促進する取組

(1) 戸別訪問実施計画

①過去の戸別訪問

(緊急雇用創出事業)

対象物件：昭和 56 年 5 月 31 日以前に着手した住宅

対象地区：安芸地区、伊尾木地区、川北地区、土居地区、穴内地区、赤野地区

戸別訪問実施期間：平成 21 年度、平成 22 年度

訪問内容：シルバー人材センターに委託

家屋の耐震化啓発パンフレット等の配布

家屋の耐震化対策に関するアンケート調査

家具の固定化等対策に関するアンケート調査

(防災安全交付金)

対象物件：昭和 56 年 5 月 31 日以前に着手した住宅

対象地区：安芸地区、伊尾木地区、川北地区、土居地区、穴内地区、赤野地区

井ノ口地区

戸別訪問実施期間：平成 28 年度、平成 30 年度、令和元年度

訪問内容：市職員（臨時職員を含む）による訪問

家屋の耐震化啓発パンフレット等の配布

家屋の耐震化対策に関するアンケート調査

地震・津波の想定及び家屋の耐震化等の必要性の説明

家屋の耐震化等の補助制度の説明

家屋の耐震化対策の意向確認

②現在の取り組み内容

(防災安全交付金)

対象物件：昭和 56 年 5 月 31 日以前に着手した住宅

対象地区：安芸地区、伊尾木地区、川北地区、土居地区、穴内地区、赤野地区
井ノ口地区

戸別訪問実施期間：令和 2 年度

訪問内容：市職員（臨時職員を含む）による訪問

家屋の耐震化啓発パンフレット等の配布

家屋の耐震化対策に関するアンケート調査

地震・津波の想定及び家屋の耐震化等の必要性の説明

家屋の耐震化等の補助制度の説明

家屋の耐震化対策の意向確認

③今後の計画

(防災安全交付金)

上記の内容と同様の計画で今後も実施予定

(2) 診断を受けた住宅所有者に対する啓発活動

- ・ 耐震診断の結果報告時に、耐震改修費用の目安となるように平均工事費や工事費の中央値等を示した冊子を配布。
- ・ 耐震診断の結果報告時に、耐震改修費用の目安となるように概算見積りを提出。
- ・ 診断済みで設計・改修未実施の住宅について、再度戸別訪問を行い、補助事業の説明を行う。
(目標 100 戸/年)
- ・ 診断済みで設計・改修未実施の住宅を対象に、個別に電話し補助事業の説明を行う。
(目標 100 戸/年)
- ・ 診断済みで設計・改修未実施の住宅を対象に、耐震相談会を実施する。
(目標 4 回/年)

(3) 事業者育成・事業者情報の提供

①事業者育成講習会（県主催、一部市町村共催）

《これまでの取組》

平成 25 年度：耐震診断士講習会 新規者対象 1 回、更新者対象 3 回

低コスト工法講習会 名古屋工業大学高度防災工学センター共催 1 回

平成 26 年度：耐震診断士講習会 新規者対象 1 回、更新者対象 1 回

- 低コスト工法講習会 名古屋工業大学高度防災工学センター共催 1回
県主催 3回（安芸市、四万十町、四万十市）
- 平成 27 年度：耐震診断士講習会 新規者対象 1回、更新者対象 1回
低コスト工法講習会 名古屋工業大学高度防災工学センター共催 1回
県主催 2回（四万十市、黒潮町）
事業者登録推進講習会 7回
（黒潮町、宿毛市、須崎市、香美市、安芸市、大月町、いの町）
耐震改修技術学校 2会場×4回（高知会場、黒潮町会場）
- 平成 28 年度：耐震診断士講習会 新規者対象 1回、更新者対象 3回
低コスト工法講習会 名古屋工業大学高度防災工学センター共催 1回
事業者登録推進講習会 5回（津野町、黒潮町、田野町、室戸市、須崎市）
耐震改修技術学校 2会場×4回（高知会場、四万十市会場）
耐震改修技術学校（特別編） 2会場×1回（高知会場、黒潮町会場）
耐震診断実務講習会 2回（高知会場、黒潮町会場）
耐震補強工事実務講習会 2回
- 平成 29 年度：耐震診断士講習会 新規者対象 1回、更新者対象 1回
低コスト工法講習会 名古屋工業大学高度防災工学センター共催 1回
事業者登録推進講習会 3回（土佐町、宿毛市、仁淀川町）
耐震改修技術学校 2会場×4回（高知会場、四万十市会場）
耐震補強工事実務講習会 4回
- 平成 30 年度：耐震診断士講習会 新規者対象 1回、更新者対象 1回
低コスト工法講習会 名古屋工業大学高度防災工学センター共催 2回
事業者登録推進講習会 3回（東洋町、宿毛市、大月町、室戸市）
耐震改修技術学校 3回
耐震補強工事実務講習会 5回（高知会場 4回、四万十市会場 1回）
- 令和元年度：耐震診断士講習会 新規者対象 1回、更新者対象 3回
低コスト工法講習会 名古屋工業大学高度防災工学センター共催 2回
事業者登録推進講習会 3回（大月町、田野町・安田町、香美市）
耐震改修技術学校 3回«今後の取組»
- 令和 2 年度：耐震診断士講習会 新規者対象 1回、更新者対象 3回
低コスト工法講習会 名古屋工業大学高度防災工学センター共催 2回
事業者登録推進講習会 3回
耐震改修技術学校 3回

②事業者情報

県ホームページに登録事業者一覧を掲載しているほか、来客に名簿を提供。

③住宅所有者向け耐震改修相談会

電話相談窓口を開設し、面談による相談も受け付けている。

(4) その他の普及啓発活動計画

①広報誌による周知

広報誌の記事や折込チラシを活用して、住宅の耐震化を啓発する。

②住民説明会の開催

市主催イベントで市職員による住宅の耐震相談を実施する。

③地震危険度マップの作成・公表

県ホームページに震度分布図、津波浸水予測を掲載

市ホームページに地震・津波ハザードマップ（防災のしおり）を掲載

④住宅耐震啓発パンフ配布

固定資産税納税通知書に折込チラシを同封し、住宅の耐震化を啓発する。

4. 関係団体との連携

戸別訪問及びその他の普及啓発活動において、県、高知県住宅・建築物耐震改修支援機関及び地域の自主防災会と連携して活動に取り組む。

5. 実績の公表

該当年度の戸別訪問件数、耐震診断・耐震設計・耐震改修工事の実績を取りまとめ、次年度の6月末までに公表する。

なお、過去の実績については以下のとおり。

	・戸別訪問実績					※戸数
	H21	H22	H28	H29	H30	R 1
戸別訪問 件数	879	1,560	142	0	410	391

・耐震改修実績

※棟数

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
耐震診断	0	50	32	16	28	26	24	27	15	15	23	17	22	61	41	37	44
改修設計	-	-	-	-	0	3	2	3	18	13	13	6	8	22	31	30	35
耐震改修	-	-	0	1	0	3	2	3	16	6	14	8	8	11	19	23	28

